

高等学校・大学におけるライフキャリア教育の実践

丸山 実子

奈良教育大学大学院教育学研究科教職開発専攻

An Attempt of Life Career Education in a High School and a University

Jitsuko Maruyama

School of Professional Development in Education, Nara University of Education

＜あらまし＞ 本研究では、ライフキャリア教育における授業プログラムの枠組構築（丸山・河崎, 2016）を基盤に、高等学校・大学において、授業プログラムを開発し、授業実践を行うことを目的とする。具体的には、高等学校は、「総合的な学習の時間」、大学（女子大学）は「教養科目」にて授業実践を行った。授業事前事後、質問紙調査による評価検証には、ライフキャリアに関する能力・態度に関する尺度（河崎, 2010）を使用し、ライフキャリアに関する能力領域である「自己理解」「人間関係」「意思決定」「職業開発」「生活実践」「キャリア統合」の6つの領域から検証した。結果、高等学校の場合、「キャリア統合」「自己理解」「意思決定」の能力領域に上昇があり「意思決定」の能力領域には有意な差が見られた。また大学は、すべての能力領域に上昇がみられ、特に、「自己理解」の能力領域に有意な差が見られ、開発したライフキャリア教育プログラムにおいて効果が得られたことを示す。

＜キーワード＞ キャリア教育 授業実践 ライフキャリア

1. 研究目的・方法

わが国の学校教育において、高等学校・大学におけるキャリア教育は盛んに取り入れられている。（文科省, 2009）によれば、生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導のもとキャリア教育を行う必要性が示されている。また、河崎（2010）は、就学前段階から大学まで、各段階に応じたライフキャリア教育のカリキュラムモデルを示し、今後キャリア教育が、教育課程に位置付けていくためには、ライフキャリア教育としての展開の必要性を示唆している。

そこで本研究では、ライフキャリア教育における授業プログラムの枠組み（案）（丸山・河崎, 2016）を基に、高等学校・大学におけるライフキャリア教育プログラムを開発し、教育実践を行うことを目的とする。具体的には、奈良県内のA公立高等学校「総合的な学習の時間」、兵庫県内のB女子大学「マイライフ・マイキャリア」の授業プログラムを開発

し授業実践を行う。A高等学校は、男女共学の進学校である。高等学校において「総合的な学習の時間」は、年間35時間と定められており、そのうちの1時間に授業実践を試みた。B女子大学は、兵庫県内にある文学部・家政学部・健康福祉学部・看護学部から成る女子大学であり、「マイライフ・マイキャリア」は全学共通教養科目前期15回となっている。以上2校での授業実践を行い、教育効果を測るために、授業実践前後に、質問紙調査を実施し検証する。

検証には、高等学校・大学ともに、「ライフキャリアに関する能力・態度に関する尺度の試み」（河崎, 2010）を使用し、ライフキャリアに関する能力領域である「自己理解」「人間関係」「意思決定」「職業開発」「生活実践」「キャリア統合」の6つの領域から検証した。質問紙調査は、合計21の問いに、「全く思わない」を1点、「あまり思わない」を2点、「どちらでもない」を3点、「少しそう思う」を4点、「大変そう思う」を5点として、5件法で回答するものとし、ライフキャリアの能力領域、各領域ごとに平

均値を算出し、t検定を行い、差異を検証した。

2. 結果と考察

2. 1. 高等学校「総合的な学習の時間」におけるプログラム開発・実践

2. 1. 1. プログラム開発

ライフキャリア教育における授業プログラムの枠組み（丸山・河崎, 2016）を基に、授業プログラム構成として、高等学校「総合的な学習の時間」におけるプログラム作成を試みた（表1）。

育成能力は「自己理解」、「人間関係」、「意思決定」、「就業開発」、「生活実践」、「キャリア統合」の6つの能力領域から成り、「単元名」に明記し、各単元ごと

に「目標」を掲げた。

授業は全15回を「小単元」とし、各回で身に付け理解させたい内容を組み立てた。さらにこの「内容欄」において、ライフキャリアで育成する能力領域（河崎, 2011）である6つの能力領域（「自己理解」、「人間関係」、「意思決定」、「就業開発」、「生活実践」、「キャリア統合」）と照らし合わせて整理し、「育成する能力領域」欄にまとめた。◎と○については、それぞれに「強く重視する」「重視する」とした。開発するテキストおよび、学習指導案の作成においては、小学校・中学校でのキャリア発達の状況を踏まえることを考慮した。特に奈良県内A公立高等学校における「学校教育目標」を視野にいれ、「総合的な学習

表1 「総合的な学習の時間」の授業プログラム構成

| 単元名 | 回 | 小単元 | 内容 | 育成する能力領域 | | | | | | 目標 |
|----------------------------------|----|-----------------------------|--|----------|------|------|------|------|--------|---|
| | | | | 自己理解 | 人間関係 | 意思決定 | 就業開発 | 生活実践 | キャリア統合 | |
| 将来のビジョンを描こう (意思決定・キャリア統合) | 1 | ライフキャリアの理解 | ライフキャリアとは何かを学び得た上で、これまでの自分をふりかえりながら自身の方向性を見だしキャリア統合へと繋げ、現段階の学生としてのお金、社会人となった場合のお金を比較し、自己理解と生活実践を深めさせる。 | ◎ | | ◎ | | | ◎ | ライフキャリアの理解と、職業とお金についての理解からライフキャリアのビジョンがもてるようになる。 |
| | 2 | 職業とお金についての理解 | 将来の就業開発についてのガイダンスと、自らが切り開いていく意思決定の重要性について学ぶ。 | ◎ | | ◎ | ○ | ○ | ◎ | |
| | 3 | 将来を見通しライフキャリアのビジョンをもつ | | ◎ | | ◎ | | | ◎ | |
| 自分を見つめよう (自己理解) | 4 | 自己理解を深めるためのアセスメントテスト・ワークの実施 | アセスメントテストを受け、自己理解と人間関係、意思決定に伴うキャリア統合に繋げる。結果から、自分を自分の言葉でまとめることで、自己理解を深める。 | ◎ | ○ | ○ | | | ○ | アセスメントテストを用いて自己分析をし自己理解を深めることができるようになる。 |
| | 5 | アセスメントテスト結果を基に自己分析 | また、まとめた内容を言語化し仲間と伝えあい、気づいたことをふりかえり、新たに意思決定することによってさらなるキャリア統合に繋げる。 | ◎ | ○ | ○ | | | ◎ | |
| 関係性をみがごう (人間関係) | 6 | 他者とのコミュニケーション方法の理解-1 | 他者との関わりで、自分がおこなう必要のある意思決定とビジョンや、そこから得られる自己理解を深めた上でキャリア統合へ繋げ、これまで学んだコミュニケーションの方法で話し合い活動としてグループディスカッションの習得と実践をする。 | ○ | ◎ | ◎ | | | ◎ | 他者とのコミュニケーション（他者とのめごと回避方法も含む）とグループディスカッションができるようになる。 |
| | 7 | 他者とのコミュニケーション方法の理解-2 | | ○ | ◎ | ◎ | | | ◎ | |
| | 8 | 話し合い活動（ディスカッション） | | ○ | ◎ | ◎ | | | ◎ | |
| 生活を創造しよう 消費者・生活者として (生活実践) | 9 | ライフキャリアデザインについての理解 | 生活水準、経済、就業、結婚と離婚、出産、育児、病気、死などについて男女の比較しながら理解し、そこから得られる自己理解と意思決定を深め、生活実践に繋げられるようにし、将来おこりうることを考えた上でキャリア統合に繋げる。 | ○ | | ◎ | | ○ | ◎ | 「男女別に特化したキャリア」「ヘルスケア」「サービスをする側と消費者の関係性」「金銭管理」を理解し、自分のライフキャリアデザインに加えることができる。 |
| | 10 | ヘルスケアについての理解 | | ○ | | ◎ | | ○ | ◎ | |
| | 11 | 金銭管理（消費者として責任ある行動）についての理解 | | ○ | | ◎ | | ○ | ◎ | |
| 仕事を創造しよう (就業開発) | 12 | 社会に出て働く世界について理解しよう-1 | 外部講師として、当高校の卒業生2名を招き、新たな情報を得る。 | ○ | | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | 働くとはどのようなことなのかを実際に働く職業人から情報を得て、自分のライフキャリアデザインに加えることができるようになる。 |
| | 13 | 社会に出て働く世界について理解しよう-2 | | ○ | | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | |
| ライフキャリアを統合的にデザインしよう (キャリア統合) | 14 | 自分の目標や職業についての理解と計画-1 | チーム編成をし、今後について意思決定している計画と目標について話し合い、チーム内で発表を行う。その後、1人1人全員の前で発表をすることで、チーム発表と個人発表から得られたことで自己理解、意思決定、就業開発についてふりかえり、最終的なキャリア統合へと繋げる。 | ◎ | | ○ | ○ | | ◎ | これまでの学びから、自分の目標と行動計画が立てられ、その内容を発表できるようになる。 |
| | 15 | 自分の目標や職業についての理解と計画-2 | | ◎ | | ○ | ○ | | ◎ | |

の時間」を核としたキャリア教育の展開を目指した。

学習指導案は、授業プログラム（全15回）の中で、授業実践を行う第1回目にあたる内容を作成した。なお、修学旅行や中間考査などの学校行事の都合上、プログラムの第1回から第4回目までの内容を、1時間で実施できるように作成した。

2. 1. 2. 「総合的な学習の時間」と「家庭科」の関連性の検討

高等学校における学習指導案作成にあたっては、「総合的な学習の時間・学習指導要領」を基に、授業内容を作成しなければならない。また、本研究におけるプログラム開発は、ライフキャリア教育における授業プログラム枠組構築（丸山・河崎, 2016）を基にするが、この枠組構築には、家庭科教科書分析から組み立てられている。よって「家庭科」と「総合的な学習の時間」の関連性を検討するために家庭科教員と連携を図った。

授業実践校には、家庭科教諭（2名）に、今回の研究内容の概要と実践したい授業プログラムについて説明をし、本来の家庭科教育との相互性を持たせるよう調整した。例えば、「総合的な学習の時間」の中で今回の授業実践を行う際、ライフキャリアレインボー（Super, 1980）を説明する。その際、生徒に、「ライフコース」と「生涯の役割」があり、その「生涯の役割」は増えたり減ったり、時には重なったりすることを伝える場面がある。その「ライフコース」という文言と意味について、既に家庭科教育の学びの中で使用した文言に合わせることで、生徒理解が深まるのではないかという話し合いに至った。

話し合いを経て、Super（1980）のライフキャリアレインボーで示されている文言での説明ではなく、生徒が既に家庭科授業の中で学び得た文言へ修正した。修正した文言は、「ライフコース」それぞれに、「成長期」を「乳幼児期」、「探求期」を「児童期」、「確立期」を「青年期」、「維持期」を「成人期」、「衰退期」を「高齢期」と修正した。こうして生徒が、既に家庭科教育の中で学んだ文言に変更をする調整を行った。

このような家庭科教諭との打ち合わせにより、「総合的な学習の時間」に行う授業内容について情報と協力を頂き、共有することができた。

2. 1. 3. 授業実践

授業は、奈良県内公立A高等学校第2学年、10クラス（382名）を対象に、2015年10月26日～30日に、表3に示めす学習指導案で実施した。授業実践において開発したテキストのうち、授業に関わる部分のみを印刷し生徒に配布した。

1) 指導観

生徒は、ほぼ全員が大学進学を志望しており、与えられた課題には真面目に取り組むなど、学習に対する意欲は高いほうである。入学後の早い段階で行われるガイダンスの中で、適性や希望進路先などを見付け、目標の実現に向けて計画的な指導を教員より受けながら、日々志望校へ合格を目指し、基礎学力から応用力へとしっかり学んでいる。生徒らのキャリアに関する活動は、学内にて行われる進学説明会での入試に関わる学校情報や、実際に大学のオープンキャンパスへ出向き、大学の様子をリサーチしたものを新聞仕立てにし、進学するための情報資源として各学級に張り出すなどの経験をしてきている。

2) 展開

授業は、1時間の授業10クラスを担当し授業実践を行った。本時の目標は、①「高校生としてのライフキャリアについて理解すること」②「自分と相手、周りの様子を比較しながら多様性に気がつく」であり目指すライフキャリアで育成する能力領域は、「キャリア統合」、「意思決定」、「自己理解」である。

ここでは、表2に示した学習指導案を基に、10月27日（木）に実施した2-Aクラスの様子を取り上げる。

「導入」では、黒板に張り出したライフキャリアレインボーにある、7つの役割、（①子ども②学生③職業人④配偶者⑤家庭人⑥市民⑦余暇を楽しむ人）を照らし合わせながら、ライフコース（「乳幼児期」、

表2 学習指導案（総合的な学習の時間・本時1時間）

| | 生徒の学習活動 | 教師による指導（支援・励まし） | 6領域 |
|----|--|---|----------|
| 導入 | <p>○教師の自己紹介を聴く。</p> <p>○本時の学習内容、学習のねらいについて確認する。</p> <p>○今の自分役割（7つ）を確認する。</p> <p>①子ども②学生③職業人④配偶者⑤家庭人⑥市民⑦余暇を楽しむ人</p> | <p>・ライフキャリアレインボーにある、役割（7つ）を照らし合わせながら自己紹介をする。</p> <p>・本時のめあてを伝える。</p> <p>・生涯の役割（7つ）について説明をし、ライフキャリアとは生涯において個人が果たす一連の発達（時間）と、それらの役割の組み合わせであることを伝える。</p> | 「キャリア統合」 |

| | | | |
|-----|---|--|--------------|
| 展開 | <p>○将来の役割をイメージする。</p> <p>○ワークシート「あなたの価値についてのランキング（価値観シート）」に、自分の価値観のランキングとその理由を書き出す。</p> <p>○ワークシート「グループの一覧表」をグループで作成した後、グループ内で、価値観のランキングその理由を伝える。</p> <p>○ワークシート「ふりかえりシート」にて価値観のランキングを基に、グループ内でふりかえる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ライフキャリアレンボーについて、黒板へ貼り出し示しながら説明する。 ・人の役割は一生の間に変わることや、役割は一つではなく、いくつかの役割を担うことを理解させる。 ・4～5人のグループを編成させ、ワークシート「あなたの価値についてのランキング」を配布する。今の時点で良いのであまり考え込まずに、直観でランキングをつけてみることを促す。ランキングへの理由は必ず明記するように促す。 ・ワークシート「グループの一覧表」を配布する。記入後、グループでワークシートの発表一人ずつ行い、聞き役はワークシートと照らし合わせながら話し合いをさせる。 ・ワークシート「ふりかえりシート」を配布する。記入後グループ内で話し合い活動がきるように、相手の話を否定しないこと伝えた上で話し合いをさせる。 ・価値観が人それぞれ違うことと、違うからこそ個性であり、それを受け入れあうことが大切であることを伝える。 | 「意思決定」「自己理解」 |
| まとめ | ○まとめとふりかえりにより、キャリア＝進学だけではいことの理解。進学にも将来ビジョンをもって選択していくことの理解。 | <ul style="list-style-type: none"> ・これから進学するにあたって、こうした将来のビジョンをもって選択していくことを伝える。再度、人生は個人が果たす一連の発達（時間）と、それらの役割の組み合わせであることを伝える。 | |

「児童期」、「青年期」、「成人期」、「高齢期」に沿って授業者の自己紹介をした。

「展開」では、4～5人のグループ編成し、ワークシート「あなたの価値のランキング」を個人で付けさせ、その後、グループ内で話し合う。作業中、ランキングをつけるスピードに配慮した。続いて、ワークシート「グループの一覧表」を作成し、皆とランキングを開示し合いその理由を互いに聴き合うよう指示した。最後に、ワークシート「ふりかえりシート」には、互いに書いた内容をふりかえるようにした。このワークシートの設問内容は、設問1)「あなたはこの活動に満足しましたか」。設問2)「あなたは他のメンバーに対して興味や関心を持って聴くことができましたか」。設問3)「あなたは、周りの価値の順位の違いについて何を感じましたか」とし自由記述とした。

「まとめ」では、グループで振り返ったことを、グループの代表者に発表を指示した。発表後、授業のまとめとして、授業者は「これから一番身近になる人生選択や決断は大学進学かもしれない、その際、今日の学びを大切にして残りの学生生活を送って欲しい」と締め括り終了とした。

2.1.4. 授業評価

調査設問・質問紙の内容は表3に示す。授業の事

前事後の2回実施した「事前の質問紙調査」は授業実践者ではなく、担任教諭が10月22日(木)「総合的な学習の時間」の一部の時間を用いて学年一斉に行った。

「事後の質問紙調査」は、授業実践者自身が10月26日(月)～30日(金)の期間中、1クラスずつ授業の終了時に行った。高校2年生(382名)を対象に調査を実施し、検証した結果を図1に示す。

6つの各能力領域における平均値は、「キャリア統合」は、3.2から3.4へ上昇した。「意思決定」は、3.3から3.4へ上昇した。「自己理解」は3.1から3.3へ上昇した。「就業開発」は、4.1から4.0へ減少した。「人間関係」、「生活実践」は3.7で変容が見られなかった。

今回の授業の目標であった能力領域である「キャリア統合」、「意思決定」、「自己理解」には、上昇がみられた。よってこの授業の目標であった目標はほぼ達成でき、特に「意思決定」の平均値間に有意差が認められた。

表3 事前事後に実施した6領域21項目の質問紙の内容

| |
|---|
| <p>第1領域：将来への展望・設計⇒「キャリア統合」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の人生に向かって、準備していることがある。 ・今後の人生に向かって、何か計画している。 ・今後の仕事や人生についての展望をもっている。 ・今後の仕事や生活において必要と思われること（経験）に現在取り組んでいる。 |
| <p>第2領域：情報収集・啓発的経験への積極性⇒「職業開発」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の能力や個性を生かす仕事には、どんなものがあるか知りたい。 ・周囲の人の仕事の内容や進め方について知りたい。 ・今後の仕事や人生が気になっている。 ・今後の仕事や生き方を見つけるために、様々な経験を行いたい。 |
| <p>第3領域：意思決定スキル⇒「意思決定」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困難な事態に直面した時、どこに問題があるかすぐに見つけることができる。 ・重要な決定の結果、起こってくるいろいろな可能性について推察できる。 ・よりよい解決策を見つけるために、できるだけ多くの情報を集められる。 ・目標を決めたら、どうすればうまくいくのか考えて準備をする。 |
| <p>第4領域：肯定的な自己理解⇒「自己理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことが好きである。 ・自分自身に自信を持っている。 ・毎日の生活が楽しい。 |
| <p>第5領域：他者との関係重視⇒「人間関係」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人との調和やルールを重んじている。 ・他の人に対して、誠実であるように心がけている。 ・人とのつながりを大切にしている。 |
| <p>第6領域：生活経験・ライフバランス⇒「生活実践」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事や生活に関連する様々な経験は、今後の人生に役立つと思う。 ・職業は、家庭や地域生活とのバランスがとれるようにすることが大切だと思う。 ・家庭・地域・職業生活を視野に入れて、ライフプランを調和的に設計している。 |

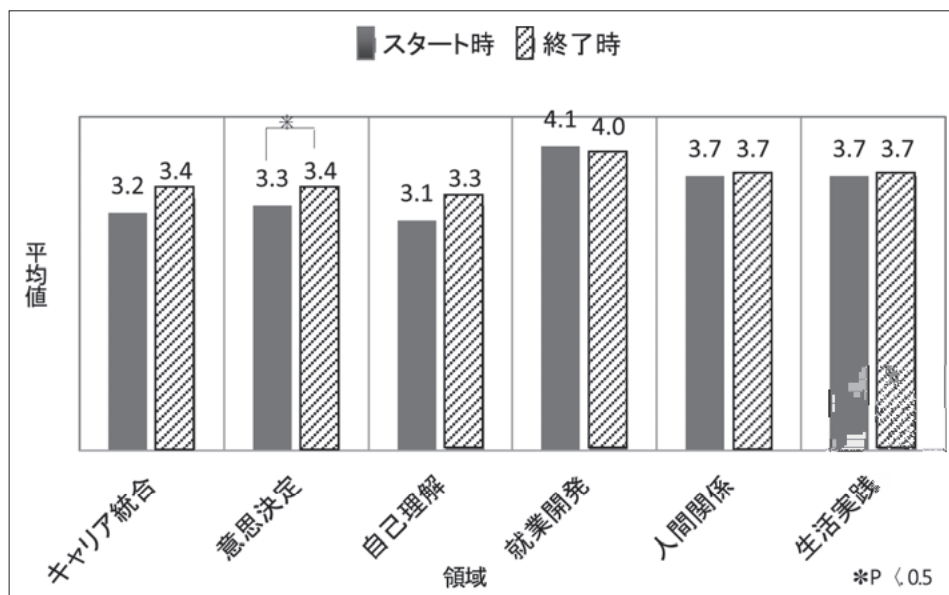


図1 高等学校における授業実践における変化

3. 1. 大学における教育プログラムの開発・実践・検証

3. 1. 1. プログラム開発

ライフキャリア教育における授業プログラムの枠

組構築（案）（丸山・河崎, 2016）を基に、大学（女子大学）「教養科目」「マイライフ・マイキャリア」におけるプログラム開発を試みた（表4）。これは、2.1.1. で述べた高等学校における授業プログラム開

発の手順と、おおむね同様となる。

単元名「意思決定・キャリア統合」の領域に相当する内容は、「将来のビジョンを描こう」とし、第1回～3回で成り立つ。それぞれに、＜ライフキャリアの理解＞、＜職業とお金についての理解＞、＜将来を見通しライフキャリアのビジョンをもつ＞とし、「ライフキャリアデザインシート・長期間」と「ライフキャリアデザインシート・短期間」を作成する。「自己理解」の領域に相当する内容は、「自分を見つめよう」とし、第4回～5回で成り立つ。それぞれに、＜自己理解を深めるためのアセスメントテスト実施＞、＜アセスメントテスト結果を基に自己分析＞では、アセスメントテスト（交流分析のエゴグラムと

YG性格検査）を実施する。「人間関係」の領域に相当する内容は、「関係性をみがこう」とし、第6回～8回で成り立つ。それぞれに、＜他者とのコミュニケーション方法の理解-1＞、＜他者とのコミュニケーション方法の理解-2＞、＜話し合い活動（ディスカッション）＞とした。「生活実践」の領域に相当する内容は、「生活を創造しよう消費者・生活者として」とし、第9回～11回で成り立つ。それぞれに、＜女性のライフキャリアデザインについての理解＞、＜ヘルスケアについての理解＞、＜金銭管理（消費者として責任ある行動）＞と示した。「就業開発」の領域に相当する内容は、「仕事を創造しよう」とし、第12回～13回で成り立つ。それぞれに、＜社

表4 「マイライフ・マイキャリア」の授業プログラム構成

| 単元名 | 回 | 小単元 | 内容 | 育成する能力領域 | | | | | | 目標 |
|----------------------------------|----|---------------------------|--|----------|------|------|------|------|--------|--|
| | | | | 自己理解 | 人間関係 | 意思決定 | 就業開発 | 生活実践 | キャリア統合 | |
| 将来のビジョンを描こう (意思決定・キャリア統合) | 1 | ライフキャリアの理解 | ライフキャリアとは何かを学び得た上で、これまでの自分をふりかえりながら自身の方向性を見だしキャリア統合へと繋げ、現段階の学生としてのお金、社会人となった場合のお金を比較し、自己理解と生活実践を深めさせる。 将来の就業開発についてのガイダンスと、自らが切り開いていく意思決定の重要性について学ぶ。 | ◎ | | ◎ | | | ◎ | ライフキャリアの理解と、職業とお金についての理解からライフキャリアのビジョンがもてるようになる。 |
| | 2 | 職業とお金についての理解 | | ◎ | | ◎ | ○ | ○ | ◎ | |
| | 3 | 将来を見通しライフキャリアのビジョンをもつ | | ◎ | | ◎ | | | ◎ | |
| 自分を見つめよう (自己理解) | 4 | 自己理解を深めるためのアセスメントテスト実施 | アセスメントテストを受け、自己理解と人間関係、意思決定に伴うキャリア統合に繋げる。結果から、自分を自分の言葉でまとめることで、自己理解を深める。また、まとめた内容を言語化し仲間と伝えあい、気づいたことをふりかえり、新たに意思決定することによってさらなるキャリア統合に繋げる。 | ◎ | ○ | ○ | | | ○ | アセスメントテストを用いて自己分析をし自己理解を深めることができるようになる。 |
| | 5 | アセスメントテスト結果を基に自己分析 | | ◎ | ○ | ○ | | | ◎ | |
| 関係性をみがこう (人間関係) | 6 | 他者とのコミュニケーション方法の理解-1 | 他者との関わりで、自分がおこなう必要のある意思決定とビジョンや、そこから得られる自己理解を深めた上でキャリア統合へ繋げ、これまで学んだコミュニケーションの方法で話し合い活動としてグループディスカッションの習得と実践をする。 | ○ | ◎ | ◎ | | | ◎ | 他者とのコミュニケーション（他者とのめもと回避方法も含む）とグループディスカッションができるようになる。 |
| | 7 | 他者とのコミュニケーション方法の理解-2 | | ○ | ◎ | ◎ | | | ◎ | |
| | 8 | 話し合い活動（ディスカッション） | | ○ | ◎ | ◎ | | | ◎ | |
| 生活を創造しよう 消費者・生活者として (生活実践) | 9 | 女性のライフキャリアデザインについての理解 | 女性にとりまく生活水準、経済、就業、結婚と離婚、出産、育児、病気、死などについて男性と比較しながら理解する。 そこから得られる自己理解と意思決定を深め、生活実践に繋がられるようにし、将来おこりうることを考えた上でキャリア統合に繋げる。 | ○ | | ◎ | | ○ | ◎ | 「女性に特化したキャリア」「ヘルスケア」「サービスをやる側と消費者の関係性」「金銭管理」を理解し、自分のライフキャリアデザインに加えることができる。 |
| | 10 | ヘルスケアについての理解 | | ○ | | ◎ | | ○ | ◎ | |
| | 11 | 金銭管理（消費者として責任ある行動）についての理解 | | ○ | | ◎ | | ○ | ◎ | |
| 仕事を創造しよう (就業開発) | 12 | 社会に出て働く世界について理解しよう-1 | 社会での事例を基にしたストーリーを追いながら、職場で必要とされる資質が理解できる、DVD「働く力育成教材ビデオ」（法政大学制作）を観覧する。また外部講師として、当大学学部の卒業生2名を招き、新たな情報を得る。 | ○ | | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | 働くとはどのようなことなのかを実際に働く職業人から情報を得て、自分のライフキャリアデザインに加えることができるようになる。 |
| | 13 | 社会に出て働く世界について理解しよう-2 | | ○ | | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | |
| ライフキャリアを統合的にデザインしよう (キャリア統合) | 14 | 自分の目標や職業についての理解と計画-1 | チーム編成をし、今後について意思決定している計画と目標について話し合い、チーム内で発表を行う。その後、1人1人全員の前で発表をすることで、チーム発表と個人発表から得られたことで自己理解、意思決定、就業開発についてふりかえり、最終的なキャリア統合へと繋げる。 | ◎ | | ○ | ○ | | ◎ | これまでの学びから、自分の目標と行動計画が立てられ、その内容を発表できるようになる。 |
| | 15 | 自分の目標や職業についての理解と計画-2 | | ◎ | | ○ | ○ | | ◎ | |

会に出て働く世界について理解しよう - 1 >、<社会に出て働く世界について理解しよう - 2 >と示す。「キャリア統合」の領域に相当する内容は、「ライフキャリアを統合的にデザインしよう」とし、第14回～15回で成り立つ。それぞれに、<自分の目標や職業についての理解と計画 - 1 >、<自分の目標や職業についての理解と計画 - 2 >と示した。

3. 1. 2. 授業実践

授業実践は、前期授業（2015年4月9日～7月16日）、兵庫県内B女子大学2年生～4年生（56名）に対して実施した。授業の流れとして、導入、展開、まとめとして進むようにし、導入時は、毎時間の席

替えとそれに伴うアイスブレイクを実施した。展開時は、本時のめあてを伝えてから授業者が開発したプログラムの内容をテキスト化したものを用い、ペアワークやグループワークを行いながら授業展開した。まともは、図2に示した「ライフキャリアデザインシート・長期間」の修正と、授業者が毎時配布する「学びのシート」（図3）を記入させ提出させた。

ここに、授業実践の一例として、全15回の授業のうち、第3回目に行った授業内容を表5に示す。

3. 1. 3. 授業評価

受講した学生56名に対して質問紙による調査票を行った。

[名前:]のライフキャリアデザインシート・長期間 学科(学編番号:) 2015年

| 探求→確立 (24歳) | | | | 確立→維持 (25歳～44歳) | 維持→衰退 (45歳～64歳) | 衰退65歳～ |
|-------------|--|-------|-------|-----------------|-----------------|----------|
| | 年後 | 年後 | 年後 | | | |
| 西暦 | | | | 年 | | |
| 年齢 | () 歳 | () 歳 | () 歳 | | | |
| 世の中のでき事 | | | | | | 平均寿命86.4 |
| 主な出来事 | どんな出来事がおきて、どんな自分になっているか？また、どんな気持ちになるかなど。 | | | | | |
| 恋愛・結婚 | どんな人と恋愛や結婚をするかなど。 | | | | | |
| 出産 | 性別、出産の希望 | | | | | |
| 子供・孫 | 自分の子供や孫の年齢 | | | | | |
| お金 | 出ていくお金 | | | | | |
| 家族 | 彼・夫 | | | | | |
| | 祖父/祖母 | | | | | |
| | 父/母 | | | | | |
| | 兄弟 | | | | | |
| その他考えられる事柄 | ペット | | | | | |
| | 取得したい資格 | | | | | |
| | 行きたい場所 | | | | | |
| | 転職 | | | | | |

図2 ライフキャリアデザインシート・長期間

表5 「マイライフ・マイキャリア」授業内容（第3回目）

| | | | | |
|-------|--|--|--|-------------|
| 講義内容 | | 単元名：将来のビジョンを描こう（意思決定・キャリア統合 3回目講義内容：「将来を見通しライフキャリアのビジョンもつ」 | | |
| 使用する物 | | 以下の①～④の4点とする。 ①「ライフキャリアデザインシート・長期間」②「マイライフ・マイキャリアテキスト」内 P7にある、「ライフキャリアデザインシート・短期間」③「学校行事予定表」④「学びのシート」 | | |
| | 概要 | 授業のすすめ方と内容 | | 使用 |
| 導入 | ①出席確認と1週間のふりかえり ②席替えとアイスブレイク ③本時の目標提示 | ①②：出席を確認しながら、先週、話題提供者だった学生から指名された学生1名は、先週から今までの一週間の出来事をふりかえり、話題提供者として話をしてもらい、授業者はその話題を広げるように質問をし、皆で共有する。その後、席替えを実施し、新メンバーとアイスブレイクを実施する。 ③：本時の目標は、別配布する「ライフキャリアデザインシート・長期間」とテキスト P7にある「ライフキャリアデザインシート・短期間」を仕上げることに伝える。 | | |
| 展開 | ④「ライフキャリアデザインシート・長期間」の作成 ⑤「ライフキャリアデザインシート・短期間」の作成 | ④：①を配布し、記入のし方を説明する。最初に1人で記入させる。その後、書いた内容についてペアワークで話し合う。 ⑤：③を配布し、②への記入のし方を説明する。最初に1人で記入させる。その後、書いた内容についてペアワークで話し合う。この作業で新たな仲間からの助言や気づきより、自身の①②の加筆、修正を行う。最後に現時点で記入されている①②を用いて4人グループで話し合う。 ・終わった人から自分の手帳にスケジュールに転記する。 | | ① ② ③ |
| まとめ | ⑥まとめと「学びのシート」の作成 | ⑥：本時のまとめをする。④を配布し、記入させる | | ④ |

[illegible]

図3 「学びのシート」

全てにおいて平均値をもとに、スタート時から終了時から得られた数値から検討したものを、図4に示す。6つの各能力領域における平均値は、「キャリア統合」は、3.1から3.7へ上昇した。「意思決定」

は、3.2から3.6へ上昇した。「自己理解」は3.2から3.4へ上昇した。「就業開発」は4.4から4.5へ上昇した。「人間関係」は3.2から4.3へ上昇した。「生活実践」は3.9から4.1へ上昇した。スタート時と終了時において差異を検証しすべての尺度において得点の平均値が高くなったことが認められ、特に「自己理解」には有意な差がみられた。これにより開発したプログラムの効果が、学生にとってライフキャリアで育成すべき能力が向上された意味を持つ。

4. 総括

本研究では、「ライフキャリア教育における授業プログラム枠組構築」(丸山・河崎, 2016)を基盤に、高等学校・大学において、授業プログラムを開発し、授業実践を行った。

具体的には、高等学校および大学の授業プログラムを開発、授業実践を行い、質問紙調査より教育効果を検証した。

高等学校では、授業の目標であった「キャリア統合」「自己理解」「意思決定」の向上がみられた。

大学では、すべての尺度において平均値が高くなったことが認められた。特に「人間関係」「キャリア統合」においては有意な差が認められた。このことにより、開発したプログラムの効果が大学生に

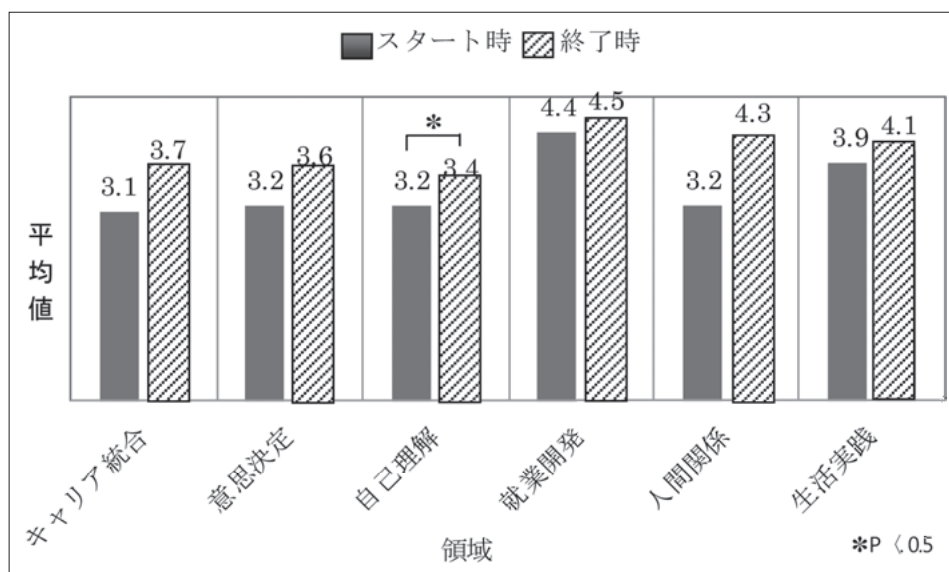


図4 大学における質問紙調査結果

としてライフキャリアで育成すべき能力が、一定程度、向上したと示唆される。

高等教育において今後の教育の方向性として、今後は高等学校における授業開発と実践においては、短期間ではなく長期間での準備と授業実践、それに伴う、質問紙調査を実施することを試みたい。

大学教育は、「大学段階では自己の特性やリソースを再認識し、社会で自己の活かし方を考えると共に他者を支援する関係性を構築する」時期（河崎, 2011）と示されていることから、キャリアプランを修正しながら、他者を支援する関係性も変化し、新たな構築となっていくと捉えたい。

今後のキャリアのあり方は、自分の満足や生計のために個人的な職業選択だけに焦点を当てるのではなく意味ある人生、すなわち自分にも社会にも役立つ仕事をするために、何度も選択をしていくことが重視されるようになるであろう。本研究の成果をもとに、今後のライフキャリア教育の実践においては、より広い視野から新たな展開を試みたい。

参考文献

- 法政大学産学連携3D教育プロジェクト（2014）
制作・著作「働く力育成教材ビデオ」
株式会社 プレスタイム社. 価値観ワークシート.
河崎智恵（2010）ライフキャリアの能力・態度に
関する尺度構成の試み. キャリア教育, 29, 25-

30

- 河崎智恵（2011）ライフキャリア教育における能力領域の構造化とカリキュラムモデルの作成. キャリア教育研究, 29, 57-69
丸山実子・河崎智恵（印刷中）ライフキャリア教育における授業プログラムの枠組構築. 奈良教育大学教職大学院紀要第8号
文部科学省（2009）高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編
奈良県立教育研究所（2009）奈良県総合的な学習の時間学習指導案
www.pref.nara.jp/secure/47353/14sougou.pdf
NPO 日本交流分析協会交流分析ワークシート・指導書（2015）エゴグラムシート
Super,D.E. (1980) *A Life-Span Life-Space Approach to Career Development Journal of Vocational Behavior*. pp282-96
辻岡美延（2012）YGPI判定マニュアル. 日本心理テスト研究所株式会社

謝辞

本研究にご協力頂いた高校・大学の関係者の方々に深く御礼申し上げます。

本研究の一部は、JSPS 科学研究費「15H03500」（代表：河崎智恵）の助成を受けたものです。